

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

会津若松市

2 構造改革特別区域の名称

「会津若松市IT特区」

3 構造改革特別区域の範囲

会津若松市の全域

4 構造改革特別区域の特性

高度情報通信ネットワーク社会へと大きく変貌を遂げつつある中において、また社会のあらゆる面で情報との関わりやコミュニケーションによる交流が拡大化してきている今日においては、誰もが、いつでもどこでも、好きなだけ情報を入手でき、また情報発信に際しても同様のことが可能となるなど、いわゆる情報の発信や情報の受信の平等化が実現されるところとなっている。

こうした情報の双方向性は、誰もが、いつでも学習できると同時に、いつでも教えたり、教材を提供する側にもなり得るなど、ITが学校教育において果たす役割は格段と高まってきており、学校教育における社会的要請や教育的課題の解決に向け、IT活用に積極的に関与していくとともに、コンピュタリテラシー及びインターネットリテラシーなどのIT活用能力の育成に努めていくことが必要とされている。

このような中、本市の状況においては、平成5年4月にコンピュータ理工学部を有する福島県立会津大学が開学し、これまで小・中・高校のための情報教育、英語教育に係るコンテンツ制作やインストラクター派遣など、地域と結び付いた取組みが行われており、今後も継続して、情報リテラシー向上への取組みはもとより、ITを教材づくりに活用していく技術やIT化社会を担うための英語力の育成支援などについて、会津大学及びその人材の集積による優位性を教育振興（人づくり）に活かしていくことができる地域特性を有している。

5 構造改革特別区域計画の意義

ITは、表現活動（コミュニケーション）、人と人との結び付き（ネットワーク）、コンテンツの創造・制作などの広い範囲で活用され、特にIT化社会のメディアを代表するインターネットによって、グローバルでかつ、ボーダーレスな社会が創り出され、人と人とを結び付ける新しい可能性を提供している。

これは、教育分野においても、オンデマンド（映像配信）、ブロードバンド（高速ネットワーク通信）によるオンライン教育やe-ラーニング学習などの面で著しい発展をみせており、今後、各教科の指導の充実など、学校教育へのIT活用を大きく進める契機となり、学級や学校の枠を超え、地域社会との様々な連携や教育活動の情報提供などを行っていくうえでも効果的な取組みができるものと期待される。

また同時に、IT化社会において、コミュニケーションを広げていくことに不可欠な国際共通語といえる英語力育成への社会的要請、さらにはITネットワークを活用した、例えば不登校児童生徒の進路形成や学習機会の提供などの教育的課題について、ITの効果的な活用方法を広め、定着させていくことができるものと期待される。

〔IT化社会における英語のコミュニケーション能力の育成〕

IT化社会を背景に、国際化・グローバル化が一段と進展している今日においては、積極的にコミュニケーションを図っていくことの大切さを踏まえつつ、外国語、特に国際共通語といえる英語のコミュニケーション能力を身に付けていくことが求められている。

また、オーラルコミュニケーションという観点だけでなく、IT化社会においては、インターネットや電子メール利用による文字としての情報の送受信はもとより、現在、ウィンドウズメディアプレーヤーなどのサウンドデータや動画データをネットワーク経由でダウンロードするストリーミング技術の発展により、音声や動画を有する直接的な会話型の情報の送受信にも対応していくため、必要な読解・作文能力の育成とともに、表現に関する知識やリスニング・スピーキング能力の育成に取り組んでいくことが必要である。

このためには、コミュニケーション能力の習得への意欲が高く、また体験型学習を多く取込んでいくことができる小学校段階から英語学習への動機付けを図っていくことにより、小中・中高といった継続的な英語教育に努め、こうした取組みを通して、英語によるコミュニケーションが可能な人材の裾野を広げていく環境づくりができていくものと期待される。

〔ITネットワークを活用した教育的課題への対応〕

IT化がもたらすメリットとして、ネットワーク構築の容易性があげられ、特に学校教育を支援するネットワーク化は、情報発信・情報交換・情報共有などの観点から、例えば不登校児童生徒に対する学習機会の提供をはじめ、心の問題等の解消や社会的自立を支援していくなどの教育的課題において、効果的な取組みや実証が得られていくものと期待される。

6 構造改革特別区域計画の目標

これまで効率のために推進されてきたIT化が、結果として経営革新や組織改革など、既存の経済活動のコンセプトを変えてきたように、教育分野においても教育のIT化がナショナルスタンダードになってくることにより、教室という限られた空間を超えての教育活動が広く行われていくこと、また教育ということを意識することなく、柔軟に人々が学び教えあっていく、いわゆる「学びあう共同体」的なものが形成されていくことが予想され、人と人とを結び付ける新しい連携と共同という観点から、特にIT化社会において、社会的要請ともなっている英語のコミュニケーション能力の育成やITネットワークを活用した教育的課題への取組みに視点をあて、教育効果の実現を目指していくものとする。

また、社会や地域という面においても、例えばインターネットによるネットワークは、地理的な結合は前提としないものの、共通の紐帯で結ばれた新しい共同性（支援などを含む）を形成していく可能性を有しており、ITがもたらすコミュニケーションの拡大や情報の共有を通じて、人々を結び付け・支援する新しい共同性づくりを目指していくものとする。

[IT化社会における英語のコミュニケーション能力の育成]

これからの社会を担う児童生徒が基礎的・実践的な英語のコミュニケーション能力をしっかりと身に付けていくことは、情報の発信や交流においての大切な手段であり、英語によるコミュニケーションが可能な人材の裾野を広げていくための環境づくりを目指していくものとする。

特にコミュニケーションに必要な英語のリスニング・スピーキング能力の育成については、相互理解による意思の疎通を図ろうとする意欲を生み出していくことが必要であり、「高学年になるほど、英語学習は受験と直結するようになり、コミュニケーション能力の習得への意欲が薄れてくる」といわれている実情などを考慮していくこと、また福島県立会津学鳳高校と併設型中学校による中高一貫教育校が本市内に開校（平成19年4月予定）され、会津大学との連携による情報教育・英語教育に特化した教育課程が検討されていること、さらには本市事業として、英語教育の中高一貫教育研究を平成15年度より実施していくことなどから、小学校の教育課程の弾力的な対応により、小学校段階から英語学習への動機付けや言語の獲得を目指し、小学校から中学校へ、中学校から高等学校へと向けた教育課程のつながりや教育指導の研究に努めていくものとする。

[ITネットワークを活用した教育的課題への対応]

学校におけるインターネット接続環境（地域イントラネット基盤整備事業：H13・14年度）を活かした多様な教育における情報化を促進するとともに、「個」の潜在能力の引き出しなどを図るため、ITを活用した学習の機会づくりなどを支援していく

ものとする。

特に教育的課題とされる不登校児童生徒対策については、ITによる学習機会の提供や電子メールによる相談・情報交換などを通して、引きこもり児童生徒の適応指導教室への通級を支援し、また通級による社会的適応力の育成により、学校復帰を目指していくものとする。

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

IT化社会における社会的要請（英語のコミュニケーション能力の育成など）及びITネットワークを活用した教育的課題（不登校児童生徒対策など）に対応し、その教育効果の実現を目指していく根底には、ITが日常的に活用できる環境において、情報の収集・情報の発信などにより、自分の考えや思いを的確に表現する力が養われ、例えば国際的な相互依存関係が一層深まっていく中で、国際社会に生きる日本人の育成、また人間関係が希薄化している中で、新しいネットワークの形成により、存在感や自己実現の喜びを実感できる連携感の構築などといった内発的な効果が期待され、人を育み心を大切にしていくという地域全体への社会的効果につながっていくことが期待される。

またその中でも、国際社会に生きる日本人の育成という面においては、相互の理解にはコミュニケーションによる直接性・明確性が必要であり、国際共通語といえる英語を使って意思の疎通を図ろうとする意欲を生み出し、交流活動はもとより、国際社会で活躍したいという人材の育成などが一層図られていくことが期待される。

さらに、ネットワーク形成による連帯感の構築という面においては、特に教育的課題とされる不登校児童生徒対策において、ITを活用した支援などが進められていくことにより、適応指導教室への通級を基本にしつつ、学習指導・自己表現の育成、またネットワークを通じての社会的な関わり合いへの意欲をもたらし、学校復帰や進路形成への取組みが図られていくことが期待される。

[目標とする指標等]

○国際社会に生きる日本人の育成面

小学校段階からの英語のコミュニケーション能力の育成については、英語学習への動機付けを図るとともに、「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」(平成14年7月12日：文部科学省)に掲げる「国民全体に求められる英語力」の中学校卒業段階の達成目標（英検3級程度）を参考に、小学校卒業段階においては、英語検定5級の領域・内容の習得及び同級の取得を目標とし、学習向上への意欲を高めていくものとする。

○ネットワーク形成による連帯感の構築面

ITネットワークを活用した教育効果の実現の一方策としての不登校児童生徒対策においては、平成14年12月の不登校児童生徒数：133人中、中学3年生を

除く数：79人について、新たな不登校児童生徒の発生を抑制していくことに努めるとともに、平成15年度想定数：79人（残人数）について、前年度の削減率（約21%）を上回るよう努力し、毎年20%に相当する15人～20人程度の不登校解消を目標に、適応指導教室への通級を促し、学校復帰を目指していくものとする。

30日以上欠席の不登校児童生徒の推移（会津若松市）

年 度	H12	H13	対前比	H14	対前比
小学校	52	45	13.5%	26	42.2%
中学校	153	124	19.0%	107	13.7%
合 計	205	169	17.6%	133	21.3%

H14 数値は
12月現在

また、不登校児童生徒のうち、平成14年度の133人中、約80%の106人が50日以上欠席者であり、長期間において学習機会がないままの状態にあることから、進路形成の問題としてとらえ、ITを活用した相談・情報交換の支援ネットワークに接続が図られるよう取組み、引きこもり状態の解消に努めていくものとする。

8 特定事業の名称

番号（802） 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

番号（805） IT等の活用による不登校児童生徒の学習機会拡大事業

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

（関連事業）

○英語教育指導方法・IT教育推進等研究事業

[事業の概要]

英語教育指導方法等の改善を目標に中高英語教員・ALTの連携を図り、英語読解力・リスニング力向上のための問題・解説・リスニング用教材を作成し、学校補習用・自宅学習用にインターネットにより配信し、中高生の学習を支援する。

（下図参照）

1) IT活用による中高生徒の英語力育成

中高英語担当教員とALT（Assistant language Teacher）との連携による学校種間の相互理解と質的向上を図るとともに、インターネットを活用したe-ラーニング提供による英語読解力、リスニング力の育成を図る。

（市内中学校、高等学校の生徒を対象）

2) モニター校（中学校対象）によるe-ラーニング学習の展開

企業協賛によるe-ライブラリシステムを活用した補足学習・発展的学習へ

の支援（生徒の自主的学習への支援）

（H15年度においては、市内中学校3校をモニター校として実践検証）

英語教育指導方法・IT教育推進等研究事業の概要



[特定事業との関連]

ITネットワークによる教育効果の実現を図る方策として、インターネットを活用した学習用教材を提供し、自主学習への取組みを支援する。

特定事業の「構造改革特別区域研究開発学校設置事業」による小学校段階からの英語教育の推進との関連性においては、英語によるコミュニケーション能力の育成において、リスニング力の育成を小学校段階から行い、当事業の中・高連携型教育に結び付けていく環境づくりを行うものとする。

また、特定事業の「IT等の活用による不登校児童生徒の学習機会事業」との関連性においては、ネットワークの構築による情報発信・情報交換などとともに、e-Learning学習の環境づくりに資していくものとする。

○「特別支援教育」推進事業

[事業の概要]

障害のある児童生徒とその保護者、またこの両者に関わる学校（担当教師等）や療育団体等との相互連携による相談・支援体制を構築するため、その初期的段階としての情報ネットワークづくりを推進する。

1) 「特別支援教育」に係る学校支援員の配置

情緒障害児学級を対象とした支援員の配置

2) メールグループサービスによるネットワークづくり

障害のある児童生徒、保護者、学校、療育団体、地域支援者などによる情報交換、相談支援とともに、自立支援への取組みを図る。

[特定事業との関連]

インターネットWEBのメールグループサービスを活用した情報交流型ネットワークにより、保護者 - 学校（担当教師等） - 療育団体等の三者間による情報提供、情報交換による相談支援、就学支援等を実施していくものであり、特定事業の「IT

等の活用による不登校児童生徒の学習機会事業」との関連性においては、ネットワークの構築による情報発信・情報交換などの推進において、ITネットワークによる教育効果の実現に取り組んでいくものとする。

別紙 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業の内容、実施主体及び開始の日並びに特定事業ごとの規制の特例措置の内容

別紙

1 特定事業の名称

番号(802) 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

会津若松市立小学校

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

認定を受けた日より開始

4 特定事業の内容

高度情報通信ネットワーク社会へと大きく変貌を遂げ、国際化・グローバル化が一段と進展している今日においては、インターネットや電子メール利用の容易性からも、広範囲でのコミュニケーションや交流が行われており、また相互理解による意思の疎通など、積極的にコミュニケーションを図っていくことが求められていることから、これからの社会を担う児童生徒が、国際共通語といえる英語の基礎的・実践的なコミュニケーション能力をしっかりと身に付けていくための環境づくりに取り組んでいくものとする。

特にストリーミング技術の発展により、音声や動画を有する会話型の情報の送受信が一般化してきており、必要な読解・作文能力の育成とともに、表現に関する知識やリスニング・スピーキング能力の育成について、「構造改革特別区域研究開発学校設置事業」により、教育課程の編成(小学校「英語」科の編成)を行うものとし、受験と直結することなく、体験型学習を多く取込んでいくことができる小学校段階から、学習の目標及び内容を明確にし、英語学習への動機付けや言語の獲得を目指していくものとする。

(1) 取組み内容

本市内の小学校での英語学習の実態においては、「総合的な学習の時間」による国際理解教育の一環として、英会話学習が行われ、「親しむ」という目標から、学習内容の定着は問わないこととしていたが、社会や経済活動が国際化する中で、将来、世界の人々と交流(ビジネスなど)していくうえでも、英語によるコミュニケーション能力

の育成が一層必要になってくることが予想され、これからの社会を担う児童生徒に対し、英語学習の必要性をしっかりと伝え、意欲をもって取り組んでいくことができる環境づくりに努めていくものとする。

また、大学入学試験への英検・TOEFLの活用や大学入試センター試験にリスニングテストの導入が提言されていることなどから、教科として英語教育を実施する意義においては、学習の目標及び内容を明確にし、リスニング・スピーキング能力の育成とともに、読むことも書くことも相手や場面の存在するコミュニケーションの形態であることに留意しながら、計画的（目標達成）に行うことにより、英語力を身に付けていくことを目指す。（「教育課程表」を参照）

- 音声による学習（聞くこと、話すこと）を主体とし、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指す。
- 外国人インストラクターと日本人教員のチームティーチング（TT指導）による授業とする。
 - * TT指導のための外国人インストラクターに対する特別免許状授与手続きは行わない。
- 児童一人一人が外国人と直接会話する時間をできるだけ多く設定するとともに、英語を使って自分の言いたいことを積極的に表現できる能力の育成を目指す。
- 授業の中で異文化に関する話題を取り上げ、外国の人々や文化に対する興味・関心を高める
 - * リスニング・スピーキングのための機会を拡大するため、「英会話サロン」を開設（放課後、夏季、冬季）する。

[目標とする指標等]

○目標の設定

小学校段階からの英語のコミュニケーション能力の育成については、英語学習への動機付けを図るとともに、「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」(平成14年7月12日：文部科学省)に掲げる「国民全体に求められる英語力」の中学校卒業段階の達成目標（英検3級程度）を参考に、小学校卒業段階においては、英語検定5級の領域・内容（下記参照）の習得及び同級の取得を目標とし、学習向上への意欲を高めていくものとする。

英語検定5級の領域・内容（財団法人日本英語検定協会）

聞く 話す	初歩的な語句で意思疎通ができる。（簡単な文の聞き分け、日常慣用の挨拶、必要最小限の意思伝達ができ、絵などを見て大体のことが言える）
読む	初歩的な文を読むことができる。（アルファベットを正しく見分け、簡単な文のあらましが分かり、その内容にあった読み方ができる）
書く	初歩的な英語で、簡単な事柄を書くことができる。（簡単な単語や文を聞いて書くことができる）

○効果等の把握

小学校「英語」教育における事業の効果や課題（TT指導、カリキュラム編成、児童の学習意欲）などを把握し、今後の英語学習の実効性に資していくものとする。
（会津若松市国際交流協会に調査委託）

(2) 対象及び授業時数

○対象：実施を希望する小学校（5年生・6年生）

○授業時数：小学校5年生（50時数～70時数）（1単位時間：45分）

小学校6年生（50時数～70時数）（1単位時間：45分）

（事業実施内容は、「5 当該規制の特例措置の内容」を参照）

[週2時間程度（50～70時数）とする授業時数の設定と取組みの考え方]

（「総合的な学習の時間」における英会話学習との相違性など）

本市内の複数の小学校においては、平成14年度の「総合的な学習の時間」の中で、国際理解教育の一環として、週1時間程度の英会話学習を実施したが、1週間という時間の経過により、「次週の時間ではほとんどの内容を忘れてしまっている」、「人と交わる、自分の意思を伝える、一緒に活動して会話するという機会（時間）が不足している」などの報告が寄せられていること、また「総合的な学習の時間」の外国語会話等を行うときは、「外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しむ」という取扱いが示されているが、「読むことも書くこと」も相手や場面の存在するコミュニケーションの形態であり、アルファベットを正しく見分け、簡単な文のあらましが分かるようにできること、また簡単な単語や文を聞いて書くことができるように取組んでいくことが必要と考えている。

このため、学習内容の定着を図るためには、中学校の週3時間程度の時数が適切であると考えられるが、児童の学習上の負担増、小学校教諭の指導力を考慮した場合、現状では困難な時数であり、現段階の目標として、週2時間以上を確保することにより、毎授業時間において「既習事項の確認 事前確認 新単元の学習」という進め方ができるようにしていくとともに、日常の題材を使った基礎的な言語活動を計画的に行い、外国人インストラクターの学校派遣により、英語学習に関する児童の興味・関心を持続していくものとする。

また、この成果を把握しながら、将来における時数設定（拡大化など）を図っていくものとする。

（参考資料）

「市内小中学校における国際理解教育・英会話学習の取組み状況」（H14年度）

[小学校5学年及び6学年を対象とする考え方]

新学習指導要領では、小学校3年生以上の児童が「総合的な学習の時間」において、学校の実態等に応じ、国際理解教育の一環として英会話等を行うことができるものとなっているが、英会話学習の前提として、日本語で自分の言いたいことを整理し、

相手にわかるように話すことができる能力を育成していくことが必要であり、こうした観点からも、英語力の定着を目標とする「英語」科の導入においては、児童の学習上の負担を避けるため、小学校5年生以上を対象としていくものとする。

このため、小学校3・4年生は、外国の文化・生活などを理解・親しむことを中心に、また小学校5・6年生は、音声(話すこと・聞くこと)はもとより、「書くこと・読むこと」も含め、体験的な学習などを通して、英語力の定着を図るものとする。

5 当該規制の特例措置の内容

「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」(平成14年7月:文部科学省)に掲げる「国民全体に求められる英語力」のための施策等を参考に、小学校段階からの英語学習への動機付けや言語の獲得を目指し、「構造改革特別区域研究開発学校設置事業」により、教育課程の基準によらない教育課程の編成を実施していくものとする。

○小学校「英語」科の編成

○「総合的な学習の時間」の授業時数について、学習指導要領で規定されている下限を下回る設定(学校教育法施行規則第24条の2)

(1) 取組みの期間

平成20年度に事業について評価・見直しを実施していくものとする。

中学校学習指導要領の外国語の目標に掲げる「実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことに着目し、実施対象の小学校5年生が受験の対象となる福島県立高校入学試験(平成20年度入試)の成績結果(学習指導要領に基づく会話文を中心とした内容)などを通して、評価・見直しを行うものとする。

(参考)平成15年度高校入試(福島県教育委員会の出題基本方針【英語】)

○身近な話題や具体的な場面を盛り込み、実践的なコミュニケーション能力を試した。

○英語的な発想の豊かさや思考力、表現力を問う問題を多く取入れた。

(2) 特定措置の実施に対する考え方

[特定措置の実施案]

年度	時 期	内 容
H15	4月：申請	「総合的な学習の時間」において、「英会話学習」を実施(継続) * 総合：110時数
	8月：特例適用開始(予定)	第2学期からの実施に向けて、教育課程変更届けを提出(「英語」科として実施)(実施希望校対象) * 英語：0~70時数(実施しない学校は0時数) * 総合：40~110時数
H16	4月：全面実施	(実施希望校対象)

[憲法、教育基本法・学校教育法における適切性の判断]

- 国際化社会に対応していくためには、国際共通語といえる英語を使える日本人の育成に取り組んでいくことが必要であり、教育基本法第2条(教育の方針)に掲げる「教育の目的を達成するためには、～ 実際生活に即し、自発的精神を養い、～ 文化の創造と発展に貢献するように努める」という方針を具現化するものであること
- 国際協調の精神を養うことの重要性は、学校教育法第18条の2に掲げる小学校における教育の目標において「2 郷土及び国家の現状と伝統について、正しい理解に導き、進んで国際協調の精神を養うこと」とされ、その達成に向け、外国語教育を充実させていくことは、最も基本的な取組みであること
- 教育課程の基準によらない教育課程の弾力的対応においては、学校教育法施行規則第26条の2により、小学校の英語教育が地域の特色・特性を生かした教育に資するものとして、「総合的な学習の時間」の一部という学習ではなく、教科として学習を確実に定着させ、将来にわたって使える英語の基礎的能力を育成していくことにあること

[総合的な学習の時間の時間数に対する考え方]

学校教育法の18条(小学校の目標)の2は、「郷土及び国家の現状と伝統について、正しい理解に導き、進んで国際協調の精神を養うこと」とした内容であり、他の条項と異なり、直接、教科と関連づけが図られていない事項であるため、学習への取組みがおろそかになりがちであり、やや目標達成が不十分な項目であると考えている。

このため、本市で計画している外国人指導者による英語教育は、「総合的な学習の時間」での英会話学習の取扱いとは異なり、教科として目標及び内容を明確にし、また相互理解による意思の疎通を図ろうとするコミュニケーションが可能な言語の獲得と定着に努めるものであり、これからの社会を担う人材の育成という面において、学校教育の目標を達成していくものとする。

このため、「総合的な学習の時間」の時数の一部削減については、「まとめ取り方式」や「A週・B週方式」(*)というような時間割編成を行い、集中して問題解決や探究活動に取り組むことによって、「総合的な学習の時間」の目標を達成していくことができるものと考えている。

* 「A週・B週方式」

A週は固定時間割りで、B集は固定時間割りが無い週として、「総合的な学習の時間」を優先するなどとした方式

[教育課程表]

1. 特例措置実施後の手順

平成15年度

第2学期当初からの実施に向けて、教育課程変更届けを各校が提出し、市教委で受理する手順とする。

平成16年度

年度を通しての全面実施とする。

2. 年間授業時数表

平成15年(4月～7月)*認定前の経過措置

小学校	各 教 科									道徳	総合的な学習	合 計 (週数)
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画	家庭	体育			
1学年	272		114		102	68	68		90	34		782 (34)
2学年	280		155		105	70	70		90	35		840 (35)
3学年	235	70	150	70		60	60		90	35	105	910 (35)
4学年	235	85	150	90		60	60		90	35	105	945 (35)
5学年	180	90	150	95		50	50	60	90	35	110	945 (35)
6学年	175	100	150	95		50	50	55	90	35	110	945 (35)

平成15年(8月～3月)*認定後及び平成16年度の措置

小学校	各 教 科									道徳	英語	総合的な学習	合 計 (週数)
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画	家庭	体育				
1学年	272		114		102	68	68		90	34			782 (34)
2学年	280		155		105	70	70		90	35			840 (35)
3学年	235	70	150	70		60	60		90	35		105	910 (35)
4学年	235	85	150	90		60	60		90	35		105	945 (35)
5学年	180	90	150	95		50	50	60	90	35	0 ～ 70	40 ～ 110	945 (35)
6学年	175	100	150	95		50	50	55	90	35	0 ～ 70	40 ～ 110	945 (35)

* H15年度の4月～7月分は、認定後に総合的な学習の時間による「英会話学習」の授業時数を「英語」の授業時数として合算する。

3．小学校英語教育の指導に関する基本要領

3-1．目 標

英語教育を通して、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を高めるとともに、異文化に対する理解を深め、広く目を世界に向け未来に夢を持つ児童を育成する。

3-2．方 針

- (1) 音声による学習（聞くこと、話すこと）を主体とし、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指す。
- (2) 外国人インストラクターと日本人教員のチームティーチングによる授業とする。
- (3) 児童一人一人が外国人と直接会話する時間をできるだけ多く設定するとともに、英語を使って自分の言いたいことを積極的に表現できる能力の育成を目指す。
- (4) 授業の中で異文化に関する話題を取り上げ、外国の人々や文化に対する興味・関心を高める。

3-3．内 容

(1) 聞くこと

強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴を知る
簡単な質問や依頼などを聞いて応じることができる。

(2) 話すこと

身の回りの簡単な単語や文章を、基本的な英語の音声の特徴を真似て話すことができる。

簡単な英語を用いて自分の伝えたいことを表現豊かに話すことができる。

(3) 読むこと

英語のアルファベットを正しい英語で読むことができる。

(4) 書くこと

英語のアルファベットの大文字、小文字を正しく書くことができる。

ローマ字を用いて、自分の名前や代表的な地名等の固有名詞を書くことができる。

3-4．言語材料

(1) 音声

語、文における基本的な強勢

英語として通用する発音

文における基本的なイントネーション

(2) 文字及び符号

アルファベットの活字体の大文字及び小文字

(3) 語及び慣用表現

日常生活に関わる基本的な語（季節、曜日、月、時刻、天候、数（序数を含む）、動物、食べ物・飲み物、色、身近な日用品、あいさつ、お店屋さん、職業、教科、

スポーツ、楽器等)

慣用表現のうち、excuse me, I ' m sorry, Thank you, you ' re welcome, Pardon? など基本的なもの

(4) 文

単文

簡単な肯定及び否定の平叙文

簡単な肯定及び否定の命令文

疑問文のうち、Be 動詞で始まるもの、can, do 等の助動詞で始まるもの、

What、Who、Whose、Which、Where、how、when の疑問詞で始まる平易な文。

(5) 文型

主語 + 動詞

主語 + 動詞 + 補語の文型のうち、

(ア)主語 + be 動詞 + (名詞、代名詞、形容詞)

(イ)主語 + 一般動詞 + (名詞、形容詞)

主語 + 動詞 + 目的語の文型のうち、主語 + 動詞 + (名詞、代名詞)

There +be 動詞 + ~

その他日常会話で表れる平易な文型

3-5 . その他配慮事項

(1) 音声を重視した学習とするが、各学校の特徴、児童の発達段階等により文字情報を取り扱ってもかまわない。

なお、文字情報を取り扱う場合には、児童の学習意欲を削ぐことのないように十分に配慮する。

(2) 題材配当表、テキストは指導のための目安とするものであり、児童の発達段階を配慮し、各校の目標・実態に応じた無理のない指導計画を作成することが望まれる。

(3) 自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から、簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げる。

(4) 和英辞典等の初歩的な使い方に慣れ、自分の知りたい語を探することができるようにする。

(5) 学習形態に工夫し、ペアワークやグループワークなどを適宜取り入れる。

(6) 異文化についての基本的な知識を紹介する活動を、適宜取り入れる。

(参考) ○活用が予想される文一覧

・小学校5 学年

・小学校6 学年

○カリキュラム(例)(50 授業時数)

・小学校5 学年用カリキュラム(例)

・小学校6 学年用カリキュラム(例)

【活用が予想される文一覧 (小学校5学年)】

- Hello. Good morning, Good evening, Good night, Nice to meet you.
See you, Good bye. Have a nice day.
- I 'm Ken. I 'm a soccer player.
- You are my friend.
- I like an orange. I like white.
- I like to play tennis. I like to play the piano.
- I don 't like hamburgers.
- This is my notebook. That is a clock.
- I want a coke.
- I have a brother.
- This is my friend Keiko.
- How are you? I 'm o.k. I 'm terrible. I 'm sad.
- There is a picture on the wall.
- I have three cats.
- Touch your nose, please.
- I want to go to a pizza house.
- I play softball.
- I have a science(math) today.
- It 's cloudy (snow) today.
- Thank you very much. Excuse me. You 're welcome. Please pass it.
- What time is it? It 's 10:30.
- I play tennis at 3. I leave home at 7:30.
- My birthday is December 25th.

【活用が予想される文一覧 (小学校6学年)】

- What 's this? It 's a guitar.
- This is his bag. Is this your book? Yes, it is. No, it isn ' t.
- Please speak slowly.
- I beg your pardon.
- Do you like miyo soup? Yes, I do. No, I don ' t.
- Large or small? Here you are. For here or to go ?
- Open the door.
- Please tell me your phone number. My phone number is 0242-39-1303.
- I 'm eleven years old. My sister is 16 years old.
- Two plus four is six. Ten minus three is seven.
- How is the weather? It 's cloudy in New York now.
- I want a chocolate. I want a new bike. I don ' t want a natto gohan.
- Welcome to Aizu Castle restaurant.
- How many in your party?
- Smoking or non?
- Can I take your order?
- What color do you like? I like blue and yello.
- I want to be a nurse.
- Who is this? Who is he? He is Toru.
- Please tell me the way to a convenience store.
- Turn right. Turn left. Go straight.
- I can ski well. Can you ski? Yes, I can. No, I can ' t.
- Whose bag is this? It 's mine. It 's Ken ' s.
- Spring is warm. Summer is hot.
- How nice! What a big dog!
- Which color do you like the best? I like red the best.
- I am going to watch TV at 8.

【小学校5学年用カリキュラム(例)】(50授業時数)

(1 ~ 18 授業時数)

小5

時	タイトル	内 容
1	オリエンテーション	・英会話学習のオリエンテーション
2	おはよう	・Hello. Good morning. Nice to meet you.
3	こんにちは はじめまして	Good evening. Good night. See you, Good bye. Have a nice day. I ' m
4	アルファベット	・文字を見ながら正しく発音しよう。
5	アルファベットの歌	・アルファベットの歌を歌おう。
6	1~5の復習	
7	数字遊び	・1~20までの数字を正しく発音しよう。 ・英語でナンバーコール遊びをしよう。
8	動物の名前を学ぼう	・いろいろな動物の名前を覚えよう。
9	動物ゲーム	・動物ジェスチャーゲームをしよう。 I ' m a . You are a .
10	くだもの名前を学ぼう	・いろいろなくだもの名前を覚えよう。 Orange, banana, apple, lemon, mellon ・I like . I like ~ and ~ .
11	7~11の復習	
12	色の名前を学ぼう	・いろいろな色の言い方を覚えよう。 ・英語を聞いて塗り絵をしよう。
13	カラーカードゲーム	・英語を聞いて色のカルタとりをしよう
14	自己紹介遊び	・I ' m . Nice to meet you. I like . の文で自己紹介をしよう。
15		・好きな物をふやして自己紹介をしよう ・自己紹介ゲームを楽しもう
16	食べ物の名前を学ぼう	・欧米の有名な食べ物の名前を覚えよう。 ・I (don ' t) like . hamburger, oatmeal, toast, pie , sunny-side up
17	12~16の復習	
18	教室にあるもの、 学用品の名前、 お菓子の名前を学ぼう	・教室に備えてあるものや身近な学用品、お菓子の 名前などを覚えよう。 This is . That is . blackboard, desk, chair, pencil, eraser, window, door

(19 ~ 33 授業時数)

小5

19	飲み物を使った英語遊びをしよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分が欲しい飲み物を書いてあるカードを探すゲームをしよう。 I want . coke, tea, juice, water, milk, coffee, cocoa, wine
20	身の回りの人たちについて学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> 家族や親戚を表す英語を覚えよう。 Father, mother, sister, brother, grandfather, grandmother, cousin I have a brother.
21	人の紹介をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 友達を紹介しよう This is my friend . him / her I like him.
22	曜日を学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> 曜日の言い方を覚えよう。 順番どおり続けていってみよう。
23	18 ~ 22 の復習	
24	感情の表現、 元気？	<ul style="list-style-type: none"> 相手の様子を尋ねてみよう。How are you?
25		<ul style="list-style-type: none"> I ' m O.K. I ' M great. I ' m terrible. I ' m happy. I ' m sad. I ' m hungry.
26	30までの数字	<ul style="list-style-type: none"> 1 ~ 30までの数字を正しく発音しよう。 英語でナンバーコール遊びをしよう。
27	います、あります	<ul style="list-style-type: none"> There is . 絵を使って「います、あります」を表現しよう。
28	いくつあるかな	<ul style="list-style-type: none"> 複数形の基本をつかもう。 I have three cats. two boys four hamburgers 10 friends
29	24 ~ 28 の復習	
30	ローマ字を読もう	<ul style="list-style-type: none"> 地名などのローマ字を正しく読んでみよう。
31		<ul style="list-style-type: none"> ローマ字で自分の名前を書いてみよう。
32	体の部分の名前を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> 命令の文 Touch your . Don ' t touch your . を使ってボディタッチゲームをしよう。 Head, hand, hip, shoulder, knee , toes
33	いろいろなお店屋さん	<ul style="list-style-type: none"> 町の地図ピクチャーカードを使って店の名前を覚えよう。 I want to go to a pizza house, restaurant, vegetable shop ,stationery store, candy shop, sport goods shop

(34 ~ 50 授業時数)

小5

34	スポーツを正しい発音で言おう	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなスポーツの名前を正しい発音で言ってみよう。 I play soccer. I like soccer. Baseball, swim, softball, hockey, rugby, basketball
35	30~34の復習	
36	教科の名前を覚えよう	<ul style="list-style-type: none"> 時間割を見て今日の教科を伝えよう。 I have a science today. Japanese, Math, Physical exercise, homemaking, social studies
37	天候を表す言葉	<ul style="list-style-type: none"> 今日の天候を言ってみよう。 It's _____ today. Cloudy, fine, snow, cold, warm, hot
38	月の名前	<ul style="list-style-type: none"> 月名を英語で正しく言ってみよう。
39	一般動詞のまとめ(第1回)	<ul style="list-style-type: none"> have, play, like を使って様々な文を作ってみよう。
40	ありがとう、すみません、どうぞ~してください。	<ul style="list-style-type: none"> Thank you. Excuse me. You're welcome. Please pass it. を使って会話をしよう。
41	36~40の復習	
42	アルファベットの大文字を書いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動に取り組んでみよう。 英語の音を聞きながら練習しよう。
43	アルファベットの小文字を書いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音を聞きながら練習しよう。
44	英語かるた遊び	<ul style="list-style-type: none"> 単語、文章を混ぜた英語かるたゲームを楽しむ。
45	60までの数字を使って時計を読もう	<ul style="list-style-type: none"> 時計を読む練習をしよう。 It's ten thirty.
46	今何時?	<ul style="list-style-type: none"> 時刻を聞いてみよう。 What time is it?
47	42~46の復習	
48	「~をします」の表現と時刻を一緒に言ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> 僕は、3時に~をします。の表現を練習しよう。 I play ~ at 3. I leave home at 7:30.
49	日にちを言おう	<ul style="list-style-type: none"> 順番を表す数字を覚えよう。 January 1st, March 9th first, second, third, fourth, fifth, sixth, seventh, eighth, ninth, tenth
50	自分の誕生日を言おう	<ul style="list-style-type: none"> My birthday is _____.

【小学校6学年用カリキュラム(例)】(50授業時数)

(1 ~ 13 授業時数)

小6

時	タイトル	内 容
1	朝昼夜のあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 様々なあいさつの復習をしよう Hello. Good morning. Nice to meet you. Good evening. Good night. See you, Good bye. Have a nice day. How are you? I ' m
2	これ、なあに	<ul style="list-style-type: none"> 知らないものについてたずねる表現を覚えよう。 What ' s this ? It ' s a guitar. OHPを使った影絵クイズをしよう。
3	「～の物」の表現をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の物、～の物の表現を覚えよう。 相手の持ち物をたずねる表現を覚えよう。 My , your, his, her This is my bag. This is his textbook. Is this your eyeglasses? Yes, it is. No, it isn ' t.
4	1～3の復習	
5	ゆっくり話してください	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり話すことや、もう一度話すことをお願いしよう。 Please speak slowly. I beg you a pardon.
6	何が好き？教科、食べ物、スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> Do you like ? Yes, I do. No, I don ' t.
7	買い物ごっこをしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ハンバーガーショップで買い物ごっこをしよう。
8	(ハンバーガーショップで)	<ul style="list-style-type: none"> Large or small? Here you are. For here or to go?
9	ハロウィーン遊びをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ハロウィーンについて学ぼう かぼちゃと仮装の衣装を作ろう Happy Halloween Day! Open the door. Trick or treat
10		
11	電話番号を言ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家の電話番号を伝えよう。 友達の家電話番号を聞いてみよう。 Please tell me your phone number. My phone number is 0242-39-1303
12	自分の年齢を言ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の年齢、家族の年齢を伝えよう。 I ' m eleven years old. My sister is 16 years old.
13	英語で計算をしてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 2 + 4 = 6 (two plus four is six) 10 - 3 = 7 (ten minus three is seven)

(14 ~ 27)

小6

14	11~13の復習	
15	お天気を言ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・天気予報を見て各地の天候を聞いたり、答えたりしてみよう。 ・How is the weather? It ' s cloudy in New York now.
16	欲しいものを言ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・欲しいもの、食べたいものを言ってみよう。 ・I want a chocolate. I want a steak. I want a new bike. ・I don ' t want a natto gohan
17	レストランゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランでの会話をしてみよう。 ・Welcome to ~ restaurant. How many in your party? Smoking or non? Can I take your order? A steak and soup, please.
18	15~17の復習	
19	どの色が好き?	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の好きな色を少し難しい文を使って聞いてみよう。 ・What color do you like? What sport do you like? I like . I like and . I don ' t like .
20	スポーツが好き?	
21	こんな職業につきたいな	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な職業の名前を英語で言ってみよう。 ・I want to be a nurse. I want to be a singer. Pilot, doctor, computer programmer
22		
23	このひとは、だれ	<ul style="list-style-type: none"> ・誰だか尋ねる表現と答え方を覚えよう。 ・有名人の写真を使ったゲームで。 Who is this? Who is he? Who is she? He is . She is .
24	このひとは、だれ	<ul style="list-style-type: none"> ・将来つきたい職業や好きなものを書いたカードを各自が持ち、インタビューしながら相手を探すゲームをしよう。 Do you like ? Do you want to be ?
25	19~24の復習	
26	借り物ゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の持ち物を借りよう。 Lend me your .借り物ゲームをしよう。
27	道の尋ね方 (コンビニはどこですか。)	<ul style="list-style-type: none"> ・道の尋ね方を練習しよう。 ・Excuse me. I want to buy . Please tell me the way to a convenience store. Turn right. Turn left. Go straight.

(28 ~ 43)

小6

28	25~27の復習	
29	私はできる!	<ul style="list-style-type: none"> ・「私は～ができる」の表現を覚えよう。 I can ski well. He can use the computer. Can you ski? Yes, I can. No, I can't.
30	音楽を楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の名前を覚えよう。 ・Flute, fiolin, piano, guitar, drums, trumpet I play the drums. Do you play the violin? I like to sing.
31	だれのかな?	<ul style="list-style-type: none"> ・だれのものが尋ねる表現を覚えよう。 ・Whose bag is this? It's mine. It's Ken's. It's Mari's.
32	29~31の復習	
33	季節を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・四季の英語を使って、四季の特徴を言ってみよう。 Spring, Summer, Fall, Winter, ・Spring is warm. Summer is hot. Autumn is cool. Winter is cold.
34	あれは、～です	
35	形容詞を含んだ文を言ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な驚きを表す文を覚えよう。 ・How nice! What a big dog!
36	32~35の復習	
37	どちらがすきななの?	<ul style="list-style-type: none"> ・物を比べてどれが好きか言ってみよう。 ・Which color do you like the best? I like red the best. ・Which subject do you like the best? I like English the best. ・Which sport do you like the best? I like Judo the best.
38	あなたの予定は	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の予定を伝えよう。 ・I am going to watch TV at 8. I am going to play TV game. I'm going to drink coke.
39	クリスマスソングを歌おう。	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスについて学ぼう
40	Silent night.	<ul style="list-style-type: none"> ・「きよしこの夜」をみんなで歌おう。
41	スキットをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを作ってスキットを楽しもう。
42		<ul style="list-style-type: none"> ・5~6人グループで簡単なスキットをやってみよう。
43		<ul style="list-style-type: none"> ・表現力豊かに楽しもう。

(44 ~ 50)

小6

44	和英辞典を使ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・和英辞典の使い方を学ぼう。 ・和英辞典で自分の表現したい単語を探そう。 ・表現したい文にチャレンジしよう。
45		
46		
47	全員でショー&テルをしよう。 (原稿作成)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語かカタカナで英文を作って、自分の大切な物を紹介する原稿を作ろう。
48		
49		
50	(発表会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラックボックスに入れてクイズ形式で楽しもう。 ・This is my . I like this very much. This is about 500en. This is very soft. I sleep with this. Many girls like this. You can touch for a second.

別紙

1 特定事業の名称

番号(805) IT等の活用による不登校児童生徒の学習機会拡大事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

会津若松市立小中学校

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

認定を受けた日より開始

4 特定事業の内容

不登校児童生徒対策については、心の問題などを解消するための指導のみならず、進路形成の問題ということに留意し、これに資する指導・相談、学習支援、情報提供などに努めていくことが必要であり、その一方策として、ITネットワークを活用した教育効果の実現など、その環境づくりに取り組んでいくものとする。

本市の不登校児童生徒対策では、「不登校児童生徒10%削減対応プログラム」を策定し、教育相談員やカウンセラーによる指導援助(学校からの要請による家庭訪問を含む)をはじめ、適応指導教室の開設により、学習や運動、体験的活動による対人関係能力の育成などに努めているところであるが、通級日(週3日)以外の指導を補完するものとして、企業協賛によるWEB型教育用コンテンツ提供サービス(セコムライズ㈱「e-ライブラリ」)を活用し、適応指導教室及び在宅での「個」に応じた学習支援、また電子メールによる相談や情報交換などを通して、社会的適応力を育成し、学校復帰を目指していくものとする。

(1) 取組み内容

本市では、平成11年度から「不登校児童生徒10%削減対応プログラム」を基に、適応指導教室の運営などを通して、学校復帰を目指しているが、実際、適応指導教室に入級を希望する相談件数が毎年30件程度あるものの、通級距離(送迎など)や出席上の扱いから、実際の入級者が半数程度になっている。

また、入級しない児童生徒の中には、出席日数を確保するため、登校はするものの、いわゆる保健室登校・相談室登校といった状態にあり、結果的には相談・学習支援な

どが行われなままの状態になっている。

このため、ITの積極的な活用により、専属の教育相談員やカウンセラーの相談支援・教科学習の提供など、意欲を促す支援方策や適応指導教室の機能を向上させていくとともに、通級日以外の在宅学習においても、その成果により出席扱いとしていく特例措置を図ることによって、通級への意欲を促し、進路形成などに取組んでいくものとする。

(参考資料)

「不登校児童生徒10%削減対応プログラム」

[適応指導教室における対応と特例措置の考え方]

現行の適応指導教室においては、本人が入級を希望し、校長が認めた児童生徒を対象に週3日間(月・水・金)開設し、通級した日数を児童生徒の在籍する学校長は指導要録上、出席扱いとしている。

(指導要録備考欄「適応指導教室〇日登校」)

特例措置においては、適応指導教室への入級手続きを基に、週の残り日数(2日間)をインターネットによる教科学習などを導入し、自己表現ができていくことなどを評価し、これを通級に相当したものとみなし、指導要録上の出席扱いとしていくものとする。

(「5 当該規制の特例措置の内容」に記載)

(適応指導教室への手続き)
入級申込み(保護者)

学校経由(校長所見添付)

教育委員会(教育長)

入級決定通知

学校経由

保護者へ通知

[目標とする指標等]

不登校児童生徒対策においては、平成14年12月の不登校児童生徒数：133人中、中学3年生を除く数：79人について、新たな不登校児童生徒の発生を抑制していくことに努め、平成15年度想定数：79人(残人数)について、前年度の削減成果率(約21%)を上回るよう努力し、毎年20%に相当する15人～20人程度の不登校解消を目標に、適応指導教室への通級を促し、学校復帰を目指していくものとする。

30日以上欠席の不登校児童生徒の推移(会津若松市)

年 度	H12	H13	対前比	H14	対前比
小学校	52	45	13.5%	26	42.2%
中学校	153	124	19.0%	107	13.7%
合 計	205	169	17.6%	133	21.3%

H14 数値は
12月現在

さらに、不登校児童生徒のうち、平成14年度の133人中、約80%の106人が50日以上欠席者であり、長期間において学習機会がないままの状態にあることから、進路形成の問題としてとらえ、ITを活用した相談・情報交換の支援ネットワ

ークに接続が図られるよう取組み、引きこもり状態の解消に努めていくものとする。

(2) 対象等

会津若松市立小中学校に在籍する不登校児童生徒で本市が開設している適応指導教室に通級する児童生徒

(参考) 会津若松市適応指導教室の対象者

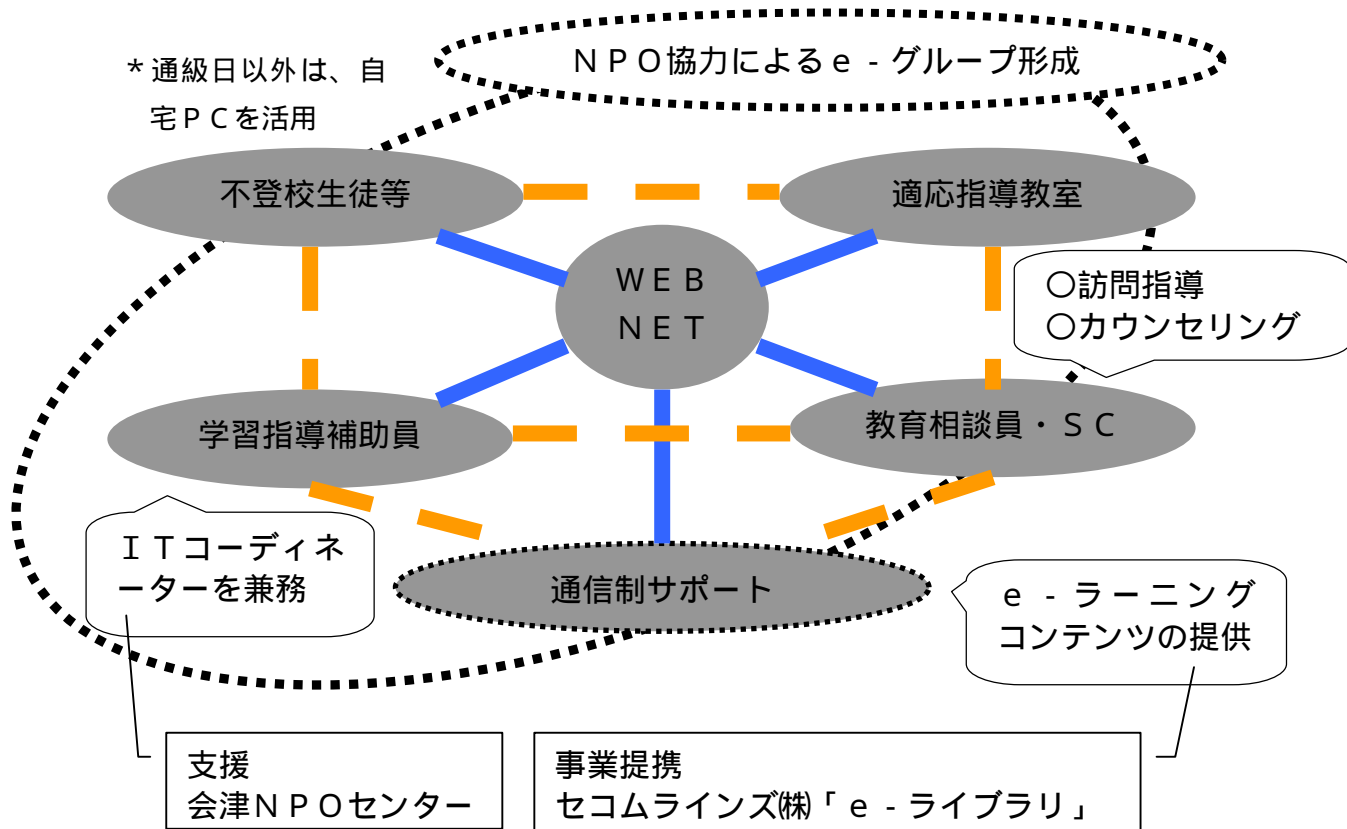
- 心理的またはその他の要因で不登校状態にあり、本人が入級を希望し、校長が認めた児童生徒とする。
- 原則として、会津若松市内の小中学校に在籍している児童生徒とする。

[ITを活用した個別指導の効果等]

- 電子メールによる書くことでの自己表現
- 学習への興味・契機づくり
- 教育相談員・適応指導教室カウンセラーによる支援
- コンピュータ学習教材による新しい学習指導方法への取組み
- 相談内容等の蓄積による分析・評価



不登校児童生徒サポートWEBの展開 (平成15年度実施計画案)



* 適応指導教室配置: PC 5台配置(会津NPOセンター協力による年間貸出)

○学習支援：事業提携機関のセコムライズ㈱「e - ライブラリ」を活用

* セコムライズ㈱「e - ライブラリ」は、学校契約の形式を採用し、所属する学校でのパスワード配布のため、不登校状態にあり、本人が入級を希望し、校長が認めた児童生徒が活用できる。

(5 当該規制の特例措置の内容

(2) 措置の内容 [学習の成果の確認方法] を参照)

○相談支援：会津NPOセンターを管理者とし、例えば「Y A H O O e - メールグループ」を活用した、メール交換・情報提供の場づくりを構築

* ネットワークづくりにおいては、情報提供などの呼びかけや相談など、NPOと連携した特別支援教育への支援活動の実績を基に、不登校児童生徒の「心の問題」の解消と社会的自立に資するネットワークの形成し、e - グループの形成による情報提供・交換及び電子メールを使用した教育相談などに努める。また、保護者等との相談へのIT活用には一定の成果が報告されているが、引きこもり傾向、人との関わりが苦手な児童生徒について、相談・参加への契機として、ITを有効に活用した教育効果の実現に取り組んでいくものとする。

* 上記に係る具体的な対応については、「今後の不登校へのあり方について(中間報告)」[不登校問題に関する調査研究協力者会：文部科学省(H 1 5 年 3 月)] に掲げる「連携ネットワークによる支援」において示している「多様な学習機会や体験の場を提供する民間施設やNPO等と積極的に協力・補完し合うことの意義は大きい」という提言に視点をあて、これまでの「心の問題」の解消などに対する教育相談員やカウンセラーの専門的な支援だけでなく、不登校対策の最終的な目標において、児童生徒の社会的自立としての「社会への橋渡し」に努めていくため、会津NPOセンターに集う多様な職種から構成される地域のボランティアスタッフと活動を共にする体験の場の提供、また保護者が共通の課題意識をもって改善につなげていくことができるネットワークづくり(親の会など)に取り組むものとして、その初期的段階として、メールグループを構成し、働きかけを行っていくものとする。

* 特定非営利活動法人 会津NPOセンター

市民参加型のまちづくりの実現に寄与することを理念とし、分野や地域を越えた民間非営利組織(NPO)の活動基盤の支援、企業・行政・各種団体とのパートナーシップの確立を図ることを目的

○まちづくりの推進を図る活動

○子どもの健全育成を図る活動

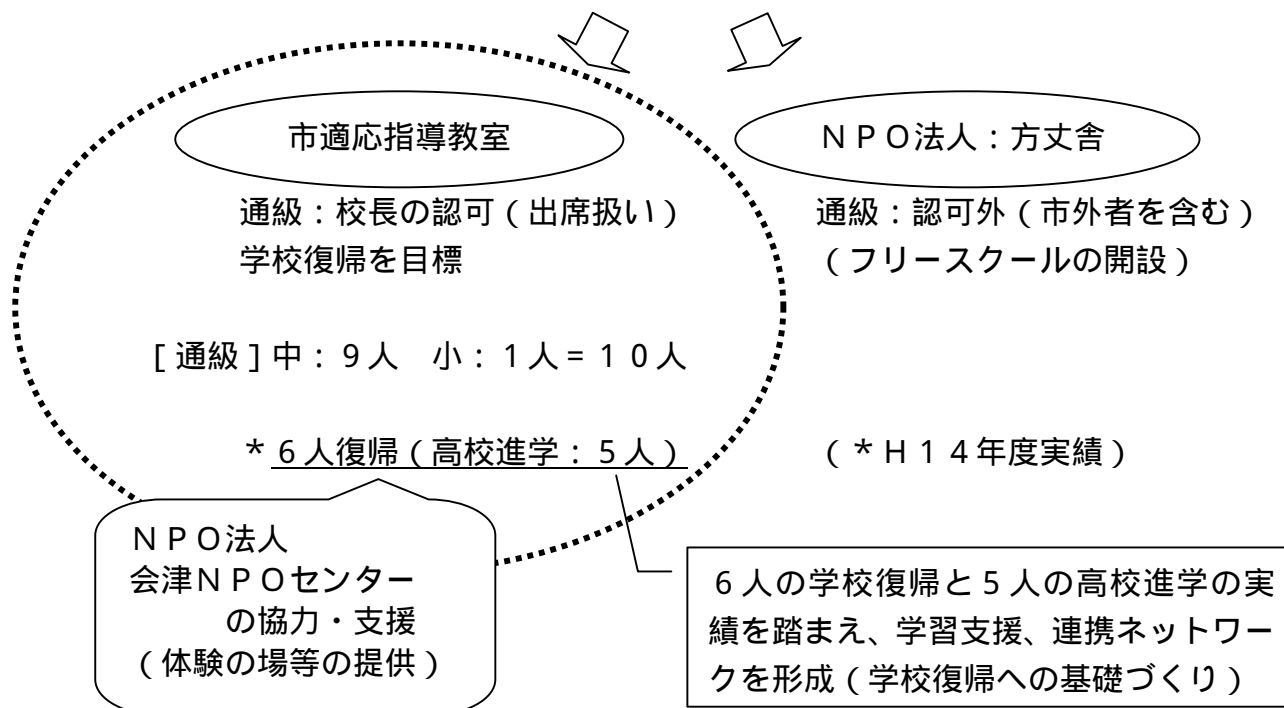
○保健、医療または福祉の増進を図る活動

○社会教育の推進を図る活動 など

(考え方の例)

H14 : 不登校児童生徒 (市内 : H14年12月現在)

(中学校 : 107人 小学生 : 26人)



5 当該規制の特例措置の内容

(1) 学習活動等の支援

本市が開設している適応指導教室において、不登校状態にある児童生徒が入級を希望し、在籍する学校の校長が通級を認めた児童生徒を対象に、週3回の学習指導、カウンセリング(適応指導教室カウンセラーによる)などの直接的支援や教育相談員による家庭訪問と合わせて、新たにインターネット配信(e-ラーニング)による学習支援を行う。

* 不登校児童生徒については、非行型の不登校と心の悩みを抱える不登校とはその対応策は大きく異なるものであるが、特に学業不振や友人関係などに関する学校生活上の問題を起因としている場合には、学習機会への適切な配慮がなされない状況にあるため、教育指導員及びカウンセラーが配置され、教育指導や定期的な家庭訪問が行われている適応指導教室に通級する不登校児童生徒を対象に、IT活用による教育効果の実現を目指し、有効な実践事例の形成に取り組んでいくものとする。

* 事業の実施においては、平成15年度から実施される「スクーリング・サポート・ネットワーク(SSN)整備事業」(平成15年度国研究指定)による学校・家庭・関係機関が連携した地域ぐるみのサポートネットワークの整備により、実践的な調査研究を行っていくとともに、不登校対策を心の問題としてのみならず、進路形成

の問題としてとらえ、学習指導要領に基づき教科編成されているセコムラインズ(株)の「e - ライブラリ」を活用したWEB型学習支援とともに、義務教育期間終了後、通信制の高等学校や放送大学選科履修などを通じた多様な進学・職業訓練への移行的支援などに取組んでいくものとする。

(参考資料)

- 「適応指導教室保護者会の意見等」
- 「適応指導教室「ひまわり」(概要)」

(2) 措置の内容

e - ラーニングによる学習活動の成果を適応指導教室において確認し、学習の成果が認められた場合において、週3回の適応指導教室通級日以外の残り2日間について、児童生徒が在籍する学校長は指導要録上出席扱いをすることができるものとする。

(現在の適応指導教室では、週3回の通級日のみ出席扱い)

[学習の成果の確認方法]

e - ラーニングによる問題の正否を確認するのではなく、問題の解き方の過程や疑問となった点、さらには考えたことなどを電子メールにより記述(表現)することで、自己表現への契機づくりを図るものとし、これを学習の成果として捉えていくものとする(学校復帰や対人関係などに対するの自主性育成への指導)。(下図参照)

但し、適応指導教室の開設日に欠席した場合は、インターネット学習をした場合でも出席扱いとはしない(対面指導を基本とし、インターネットにより補完)。

学習支援の提供形態・指導管理のシステム
(セコムラインズ株式会社「e-ライブラリ」の概要)

- 教材のデータベースと児童生徒の個人の学習履歴データが中央サーバ(セコムラインズWEBフォルダ)に蓄積
- 教材(問題)は、児童生徒の理解に応じて自動的に準備
- 指導者は、児童生徒の学習進捗状況・成績結果をWEB上で管理(学習履歴をプリントアウトして指導に利用)

(参考)学習履歴型システム
学習指導要領対応の
5万問のデータベース

学習單元ごとのプレテスト
(レベルの設定)
レベル評価による問題構成
(理解度の把握)
学習結果による次の教材を
ナビゲーション
(学習履歴の管理)

